

テーマ：『 いかにか読解力を育てるか 』

横浜市立 井土ヶ谷小学校

Tel. 045-741-5588

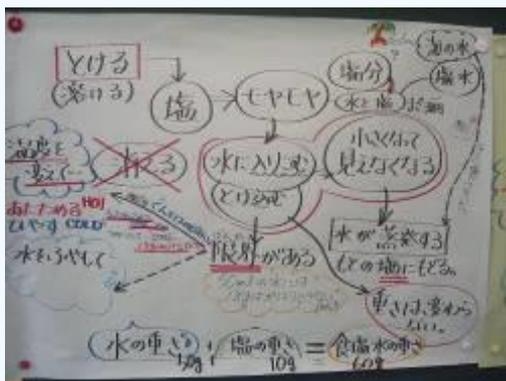
担当 黒田 篤志

者：

意欲を高める教材の工夫



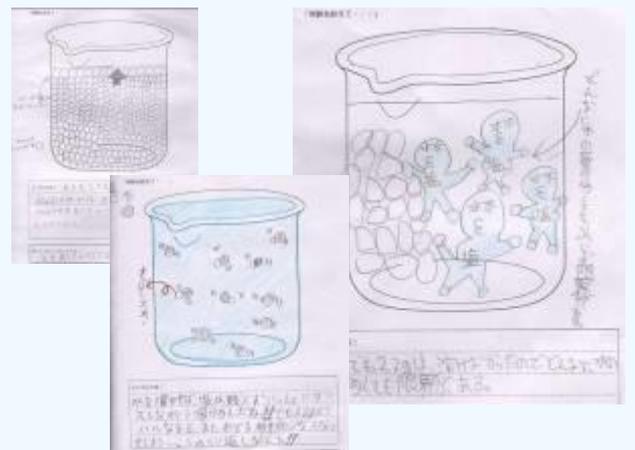
協同して思考を高め、学級の知を創る



思考の流れを意識した単元構成



子どもの豊かな表現を大切にする



■実践内容:

理科の学習は、問題解決の活動そのものであると考えられます。問題解決の活動は、子どもに読解力を育てることと深く関係があり、本校では、ここ4年間、子どもにいかにか読解力を育てるかをテーマに研究を進めてきています。そこで大切なことは、この活動が、子ども主体で行われているかどうか。また、そこに関わる教師の役割はどうあるべきかであります。

本研究では、次に挙げる2つの課題について実践研究を行ってきました。

第一は、子どもたちが主体的に学習する場面を意識した単元の構想を学習前に行うこと。

第二は、学習に入ってから子どもが自らの見方や考え方を更新していく問題解決活動を支える支援について明らかにすること。です。

■実践成果:

新指導要領が世に出て、数ヶ月がたちました。本文に子どものイメージという言葉も見られ井土ヶ谷モデルが、社会的にも認知されてきていることが証明されました。子どものイメージ・表現は、自然の事物・現象と科学的概念を繋ぐ働きをもち、読解力を育てるために必要な手段となります。今後は、子どもの思考をつぶさに分析し、子どもの思考パターンを把握することで、適切な指導法を明らかにしていきます。

■実践ポイント:

子どもの表現に潜む子どもの科学を読み取る教師の目・技術・知識が必要です。教師集団での共通認識を図ることで、教師力を高めることが大切となってきます。